

2022年度事業報告

特定非営利活動法人
フードバンクあったか元気便

22年度は、コロナ感染禍の長期化や諸物価の高騰などの影響もあり利用者が急増しました。こうしたなかで目標とした360世帯の利用を大きく上回り17校392世帯に利用が広がりました。これら17校の小・中学校に通う児童・生徒数は松江市内の全児童・生徒数の40%を超えました。

○利用者・地域からも「より信頼される」NPO法人としてスタート

- 1： 7月のNPO法人設立総会を経て8月にNPO法人を設立しました。
- 2： 利用も前年度11校、のべ1,405世帯から、17校、のべ1,737世帯に広がりました。アフガン避難民家族への食品応援をはじめ、島根大学、あらたに県立大学（松江キャンパス）の学生応援にも取り組みました。
- 3： 「おたがいさま まつえ・やすぎ」や地域つながりセンターの「”子ども笑顔” 応援基金」と協同して開始した「おかあさんのための『レスパイト応援』」は、のべ利用は5回・5時間になりました。
- 4： SNSの活用で必要な情報発信と交流促進を図る取り組みは、新たにSMSの導入を図り本格的な取り組みへの移行がすすみつつあります。
- 5： 就学援助世帯の子どもたちを対象に取り組んだ長期休校期間の「お昼ごはん+寺子屋（学習応援）」の取り組みは、夏休みの津田小校区に続いて、冬休みには古志原校区でもはじまり、のべ11回開きました。島根大や新たに県立大の学生ボランティア、公民館や地区民児協、地区社協、食改支部などと連携した取り組みとなりました。
また、サクラ高等学院の高校生と島大学生ボランティアの実行委員会主催で「クリスマス交流会」を開催できました。

○利用者と地域の「橋渡し役」として

- 1： フードドライブ参加は、21年度69団体から88団体の参加に広がり総量約28トンの食品とお米が寄せられました。
農水省や全国食支援活動協力会、食品総合卸業など、新たな食品確保ルートの拡大に努めました。
- 2： ボランティア等、のべ約1,100人が参加しました。
利用者増のなかで、新たに小規模パッキング作業などに取り組みました。効率的で、ボランティアの相互交流もしやすい昼間のスタイルとして新たな参加層のひろがりにもなりました。また、大学生や高校生など、若い世代にも広がりを作りつつあり、のべ参加者数は昨年比の125%となりま

した。

- 3 : 「市内100箇所の募金箱設置計画」は、財源確保の1つの柱として取り組み79箇所に設置できました。昨年度に続き「しまね社会貢献基金」を通じたクラウドファンディングとあらたに共同募金会のテーマ募金に取り組み目標を達成しました。

また、松江保健生協では、地域の組合員支部主催の「フードバンクしまね応援バザー」が3箇所の取り組みに広がりました。

前年に引き続き一畑百貨店では、通年で「寄付金付き商品販売」に組み組みとなりました。「フードバンク応援自動販売機」は、10台の設置または設置予定となりました。

○もっと発信、もっと地域と

- 1 : ホームページの更新を図り、親しみやすく、わかりやすい、スピーディーな情報発信に努めました。Facebook は、日頃の「小さな情報」の発信を強め、フォロワーも徐々に増加しています。元気便だより(会報)は、4回発行し定期配布部数は2,640部となりました。

また、ローカルテレビニュース、ローカル紙掲載等、マスコミ報道を通じて地域への情報発信がすすみました。

フードバンクの取り組みを紹介する講演会や報告会も14箇所、424人の参加がありました。「フードバンクしまね学習講演会」には、70人を超える参加があり学習と交流を図りました。

- 2 : 島根大学の学際的な研究チームと共同で「利用者アンケート調査」を行い、情報発信と学習、結果を踏まえた「提言」をまとめました。

○法人化に見合った基盤強化、管理運営の整備に取り組みました

- 1 : NPO 法人移行に伴い、諸規定の整備等を図り管理運営改善を図りました。また、正会員やサポート会員の拡大など土台づくりの強化を行いました。引き続き「役員担当制」で諸課題をすすめるとともに、経理実務専任者の配置や運搬車両の購入など日常業務の整備をすすめました。